

授業名： 憲法

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	こども未来学科	【学年】	1		
渡辺 信英		一般	細川	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)	
				【曜日・コマ】	木 3	【授業形態・単位】	講義 2	
【授業の概要】 本講義では、国家の基本法である憲法の全体像を学ぶことにあるが、その憲法についてより深く理解するために、まず、法と歴史について概観する。そのうえで、憲法とは何か、その意義及び成り立ち、憲法の基本原理、国家の統治機構の枠組み、人権について学習する。					【受講して得られる力】 考え抜く力			
【学習目標(到達目標)】 本講座において、日本国憲法を中心に、基本的人権に関して生じた判例を中心に、保育との関連を踏まえて、憲法の構造、目的を自分で説明できるようになることを目的とする。								
【履修上の注意】								
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)					
1	日本国憲法の意義		「個人の尊重」の意義について 個人の存在的意味と役割について説明することができる。					
2	日本国憲法の基本原理		基本的人権・国民主権・平和主義について 基本原理を説明することができる。					
3	人権の観念		人権の歴史、人権の体系について 人権の制度趣旨を説明することができる。					
4	法の下での平等		幸福追求権と平等権について 法の下での平等を判例を挙げて説明することができる。					
5	精神的自由権		思想・良心の自由、信教の自由について 精神的自由権を判例を挙げて説明することができる。					
6	表現の自由		表現の自由・集会結社の自由について 表現の自由を判例を挙げて説明することができる。					
7	経済的自由権		職業選択の自由、財産権について 経済的自由権について判例を挙げて説明することができる。					
8	社会権		生存権と教育を受ける権利について 社会権を判例を挙げて説明することができる。					
9	日本国憲法のまとめ		日本国憲法の統治機構と人権について 日本国憲法の内容を説明することができる。					
10	民法		民法の体系(1) 民法の体系(2)					
11	民法 総則(1)		人・行為能力 法律行為(1)					
12	民法 総則(2)		法律行為(2) 不法行為					
13	物権		物件とは 所有物など					
14	債権		債権総論 債権各論					
15	家族法		親族法 相続法					
期末試験	筆記試験		評価方法	受講態度	30%	筆記試験	70%	
【教科書】日本国憲法 人権と福祉 (南窓社)								
【参考書】								
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】								
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】				教員室にて

授業名: 情報処理(1/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	こども未来学科	【学年】	1
瀬谷 由美子	一般	細川	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)
			【曜日・コマ】	火 3	【授業形態・単位】	演習 2
【授業の概要】 文書、表、プレゼンテーション資料をパソコンを用いて作成するための知識について学習する。					【受講して得られる力】 前に踏み出す力 考え抜く力	
【学習目標(到達目標)】 ・パソコン上で情報やデータを取り扱うための基本的な知識・能力(情報リテラシー)を身に付ける。 ・プレゼンテーションの基本を身に付ける。						
【履修上の注意】 各自、USBメモリを用意し持参すること。						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	情報処理の基礎知識	オリエンテーション、コンピュータとインターネット、Windowsの基礎知識 講義の概要とパソコン上でOfficeを利用するための基本知識が理解できる				
2	Wordによる文書の作成と管理	Wordの基礎知識、文書の作成、文書の印刷とページ設定 Wordで文書を作成し、管理するための基本となる手順・操作が理解できる				
3	Wordによる表の作成と文書の編集	表の作成、文書の編集 文書に挿入する表作成と文書編集の手順・操作が理解できる				
4	Wordによる既存のデータを利用した文書の作成	表現力をアップする 既存のデータや写真を文書に挿入して利用する方法が理解できる				
5	Wordによる長文作成	長文作成をサポートする、ビジネス文書の基礎知識 長文の目次の設定方法、及び実務で使用する文書作成の基本的ルールが理解できる				
6	Excelによる表作成の基本操作	Excelの基本知識、データの入力・編集 Excelで表を作成するための基本となる手順・操作が理解できる				
7	Excelによる表の編集と印刷	表の作成、表の印刷 表を見やすく、使い易くするための編集・印刷の手順・操作が理解できる				
8	Excelによる集計表の作成	いろいろな数式 集計表を作成するときに用いる数式や関数について理解できる				
9	Excelによるグラフの作成とデータ操作	グラフと図形、データベースの利用 グラフ作成、及びデータの並べ替えと抽出の手順・操作が理解できる				
10	PowerPointによるプレゼンテーション資料の作成	PowerPointの基礎知識、プレゼンテーションの作成 PowerPointでプレゼンテーション資料を作成するための基本となる手順・操作が理解できる				
11	PowerPointによるビジュアル表現	図やオブジェクトの挿入と編集、図表・グラフ・表の挿入と編集、特殊効果の設定、印刷関係の機能 ビジュアルな表現により、質の高いプレゼンテーション資料を作成するための基礎的な手順・操作が理解できる				
12	PowerPointによる効果的なプレゼンテーション	スライドショーをサポートする機能、プレゼンテーションの基本技能 効果的なプレゼンテーションを行うために必要な基本的ポイントが理解できる				
13	PowerPointによるプレゼンテーションの実際 1	自己紹介資料の作成 自己紹介資料の作成から発表までを体験することにより、プレゼンテーション資料作成の知識の定着化を図る				
14	PowerPointによるプレゼンテーションの実際 2	自己紹介資料を用いたプレゼンテーションの実施と評価 PowerPointを用いたプレゼンテーションの実施と評価を通して、プレゼンテーションの基本を理解する				
15	まとめ	講義のまとめと評価				
期末試験		評価方法	受講態度	30%	課題の達成度	70%
【教科書】 よくわかるWord2013&Excel2013&PowerPoint2013(FOM出版) よくわかるMicrosoft Word2013応用(FOM出版) よくわかるMicrosoft Excel2013応用(FOM出版) 情報モラル&情報セキュリティ改訂2版(FOM出版)						
【参考書】						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】						
【本講義に関しての質問先】		担当教員	【質問方法】 教員室にて			

授業名: 情報処理(2/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	こども未来学科	【学年】	1
瀬谷 由美子	一般	細川	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)
			【曜日・コマ】	火 3	【授業形態・単位】	演習 2
【授業の概要】 文書、表、プレゼンテーション資料をパソコンを用いて作成するための知識について学習する。					【受講して得られる力】 前に踏み出す力 考え抜く力	
【学習目標(到達目標)】 ・パソコン上で情報やデータを取り扱うための応用的な知識・能力(情報リテラシー)を身に付ける。						
【履修上の注意】		各自、USBメモリを用意し持参すること。				
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	情報モラルと情報セキュリティ	オリエンテーション、個人情報の取扱い、デジタル時代の著作権、ネット社会に潜む危険と対策、メール/Webによるコミュニケーション 講義の概要とネットワーク社会で巻き込まれ易いトラブルを回避するための情報モラルと情報セキュリティ対策について理解できる				
2	Wordによる図形や図表を使った文書の作成	テーマの適用、ワードアートの挿入、SmartArtグラフィックの挿入、テキストボックスの利用 SmartArtグラフィックや図形等のオブジェクトを挿入し、それらのオブジェクトに効果的な書式を設定することができる				
3	Wordによる写真を使った文書の作成	画像の圧縮と加工、写真の編集、図の挿入 トリミングや背景、アート効果の設定など、画像を効果的に見せる手順、操作が理解できる				
4	Wordによる差し込み印刷	差し込み文書の作成、ラベル印刷 案内状や挨拶状、宛名ラベルなどExcelで作成したデータを差し込んで印刷する手順・操作が理解できる				
5	Wordによる長文作成の活用	見出しの設定、文書校正の変更、スタイルの適用、アウトラインの設定 長文の作成に便利な機能を理解し文書全体に統一したデザインを適用する手順・操作が理解できる				
6	Word文書の校閲	文書校正機能、コメントの挿入、変更履歴を使った文書校閲 文書を閲覧するときに役立つ機能の手順・操作が理解できる				
7	WordによるExcelデータを利用した文書作成と便利な機能	Excelデータのリンク貼り付け、セクション区切り、文書プロパティの設定、文書の保護、テンプレートの活用 Excelデータとの連携や文書を管理するための便利な機能の手順・操作が理解できる				
8	Excelを利用した関数の利用	関数の概要、関数の活用 関数を理解し関数を使った数式を活用する手順・操作が理解できる				
9	Excelを利用した表作成の活用	条件付き書式設定、ユーザー定義の表示形式、入力規則、コメントの挿入、シートの保護 表を作成する際に便利な機能を使いこなす手順・操作が理解できる				
10	Excelを利用したグラフの活用	複合グラフの作成、補助縦棒グラフ付き円グラフの作成、スパークライン 視覚的にわかり易いグラフを作成する手順・操作が理解できる				
11	Excelを利用したグラフィックの利用	SmartArtグラフィックの作成、図形の作成、テーマの設定 様々なグラフィックを利用する手順・操作が理解できる				
12	Excelを利用したデータベースの活用	データの集計、表をテーブルに変換する 集計、テーブル機能を使い効率よくデータを管理する手順・操作が理解できる				
13	Excelを利用したピボットテーブルとピボットグラフの作成	ピボットテーブルの作成と編集、ピボットグラフの作成 データを多角的に集計・分析する手順・操作が理解できる				
14	Excelを利用したマクロの作成	マクロ概要、マクロの作成と実行、マクロ有効ブックとして保存 作業を自動化して効率良く作業をすすめる手順・操作が理解できる				
15	まとめ	講義のまとめ				
期末試験		評価方法	受講態度	30%	課題の達成度	70%
【教科書】	よくわかるWord2013&Excel2013&PowerPoint2013(FOM出版) よくわかるMicrosoft Word2013応用(FOM出版) よくわかるMicrosoft Excel2013応用(FOM出版) 情報モラル&情報セキュリティ改訂2版(FOM出版)					
【参考書】						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】						
【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて			

授業名: ポケット・ゼミ(1/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	こども未来学科	【学年】	1	
細川 梢	一般	細川	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)	
			【曜日・コマ】	月 4	【授業形態・単位】	演習 2	
【授業の概要】 基本的な学習方法や社会人に必要なスキルを具体的に習得する。また、グループディスカッションを通して自分の考えを述べたり、他者の意見を聞く力を育成する。					【受講して得られる力】 前に踏み出す力 チームで働く力 コミュニケーション技術		
【学習目標(到達目標)】 ①社会人として必要な知識を身につける。 ②専門学校での学ぶ意味を理解する。 ③基本的な学習方法を習得する。 ④グループワークを通じて、コミュニケーション力を身につける。							
【履修上の注意】 特別講座によっては、日程が変更になることもあるため、講義日に注意してください。							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	新入生の気持ち		今の気持ちを見つめ、今後の学生生活を考える。				
2	生活デザイン設計		1年間・前期の目標、週間生活スケジュールを組み立てる。				
3	自分の学校		高校と専門学校の違いを理解し、校内探索をしながら理解を深める。				
4	自分の学科と目指す資格		学科の内容や取得できる資格を理解する。 資格や免許について理解し、挑戦したい資格を明確にする。				
5	ノートの取り方・講義の受け方		各講義の特徴を理解し、ノートの取り方や講義の受け方を習得する。				
6	マナー講座		一般的なマナーについて学び、自らも実践できるよう習得する。				
7	スポーツ大会の準備		スポーツ大会に参加するねらいや、取り組む姿勢について理解する。				
8	演習の受け方		ディスカッションのポイントとアサーティブコミュニケーションを知る。				
9	新聞講座		新聞や文章の読み取り方、内容のつかみ方を理解する。 筆者の考えと自分の考えを区別しながら、要約する方法を習得する。				
10	献血講座		献血の仕組みや必要性などを講話を通して理解を深めながら、社会貢献の意味を考える。				
11	年金講座		年金の仕組みを講話を通して理解する。				
12	スポーツ大会の振り返り		スポーツ大会の取り組みを振り返り、今後の取り組む姿勢を考える。				
13	レポートの書き方		レポートの書き方やルール、提出方法を習得する。				
14	東都祭の準備		学園祭に参加するねらいや、取り組む姿勢をクラス全体で話し合い、今後の具体的な準備を考え実行する。				
15	定期試験の準備		試験の形式やルールを理解し、それに必要な準備や見通しを立てる。				
期末試験			評価方法	課題の達成度	30%	授業への貢献	40%
				受講態度	30%		
【教科書】							
【参考書】							
【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】 本講義で立てた目標は、日頃から意識して生活をしてください。							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

授業名: ポケット・ゼミ(2/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	こども未来学科	【学年】	1		
細川 梢・菊地 和章		一般	細川	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)	
				【曜日・コマ】	水 4	【授業形態・単位】	演習 2	
【授業の概要】 基本的な学習方法や社会人に必要なスキルを具体的に習得する。また、グループディスカッションを通して自分の考えを述べたり、他者の意見を聞く力を育成する。					【受講して得られる力】 前に踏み出す力 チームで働く力 コミュニケーション技術			
【学習目標(到達目標)】 ①社会人として必要な知識を身につける。 ②専門学校での学ぶ意味を理解する。 ③基本的な学習方法を習得する。 ④グループワークを通じて、コミュニケーション力を身につける。								
【履修上の注意】 特別講座によっては、日程が変更になることもあるため、講義日に注意してください。								
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)					
1	金融講座 細川		悪質商法やクレジットカードの仕組みなど、お金に関する正しい知識を習得する。					
2	生活デザインの再構成 細川		前期から夏休みまでの生活や目標、授業態度を振り返り、後期の生活や目標を再構成する。					
3	東都祭の準備 細川		学園祭の指導計画を立案し、計画的に協力して行う。					
4	東都祭の準備 細川		リハーサル、総仕上げ、確認を協力して行う。					
5	作文・小論文の作成 菊地		作文と小論文の違いを理解し、テーマに沿って文章を作成する。					
6	東都祭の振り返り 細川		学園祭の活動を振り返り、学んだことから今後の取り組む姿勢を考える。					
7	個人調書の書き方 菊地		履歴書や個人調書の書き方の留意点を理解し、履歴書を作成する。					
8	学びの振り返り 細川		前期の学習を科目ごと、何を学びどれだけ理解しているのかを振り返り、再学習の対策を考える。					
9	自己紹介の方法 菊地		自己理解を深め、自己紹介分を考え発表する。					
10	マイナンバー講座 細川		全国民が持つナンバー制度の仕組みと、その取り組みの意味を理解する。					
11	手紙・はがきの書き方 菊地		手紙とはがきの書き方のルールを理解し、年賀状を作成する。					
12	定期試験の準備 細川		各試験の形式を振り返り、試験の準備に必要なことを確認する。					
13	お礼状の書き方 菊地		お礼状の形式を理解し、お礼状を作成する。					
14	自分の価値観 細川		自分の価値観を見つめ、他者と共有することで様々な価値観が存在することを理解する。					
15	他者の価値観 細川		自分の価値観と他者の価値観を共有し、グループで一つの考えを導く。					
期末試験	振り返りレポート 細川		評価方法	課題の達成度	30%	授業への貢献	40%	
				受講態度	30%			
【教科書】								
【参考書】								
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 本講義で立てた目標は、日頃から意識して生活をしてください。								
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】				教員室にて

授業名: 英語(1/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	こども未来学科	【学年】	1
ロバート・ホルト	英会話講師 14年勤務	細川	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)
			【曜日・コマ】	火 2	【授業形態・単位】	演習 2
【授業の概要】 This is a course to prepare students to communicate with and teach in English to children in a classroom setting.					【受講して得られる力】 前に踏み出す力 発達援助技術 コミュニケーション技術	
【学習目標(到達目標)】 Students will be expected to use English in class (i.e. in greeting the teacher or other students). Over the course students will experience English in a number of formats (reading, listening, music etc) and will be expected to communicate in English and sing songs.						
【履修上の注意】		Students will be expected to do homework as and when set. Students will need a dictionary in class.				
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	Saying Hello – Goodbye	Saying hello / goodbye and other forms. Introduction to classroom language.				
2	“Story” Time	Common classroom events, i.e. story time, and classroom language.				
3	The months and seasons	Days, months and seasons and being comfortable in their use and spelling.				
4	Numbers	Counting, simple arithmetic use, and an introduction to ordinal numbers. Singular and plural nouns, a / an, plurals.				
5	Arts and Crafts	Arts and crafts, focusing on activity names and colours / materials used.				
6	“Potty Time”	Classroom language for toilet time, washing and other “accidents”.				
7	“Play Time” / Mini-Test	Recap of weeks 1–6, with a focus on using the language quickly and accurately. Mini-Test (15%).				
8	“What’s The Time?”	Telling the time and review of numbers.				
9	“How do you feel today?”	A focus on emotions and feelings.				
10	“Dinner Time”	Common food names. Introduction to eating utensils and crockery.				
11	“Bed Time”	Language used for “bed time” and sleep related clothing / materials.				
12	Family	Introducing family names. He and She focus.				
13	Songs	Songs that are commonly sung in a classroom.				
14	What is he / she doing?	Grammar introduction – present continuous; to use “I am verb-ing” accurately.				
15	Future Plans	Grammar introduction – using “going to” to describe future plans.				
期末試験	Examination	評価方法	筆記試験	70%	小テスト	15%
			受講態度	15%		
【教科書】: Test of English for Early Childhood Educators – Course Book 4.						
【参考書】:						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】:						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】: 教員室にて			

授業名: 英語(2/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	こども未来学科	【学年】	1
ロバート・ホルト	英会話講師 14年勤務	細川	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)
			【曜日・コマ】	金 2	【授業形態・単位】	演習 2
【授業の概要】 This is a course to prepare students to communicate with and teach in English to children in a classroom setting.					【受講して得られる力】 前に踏み出す力 発達援助技術 コミュニケーション技術	
【学習目標(到達目標)】 Students will be expected to use English in class (i.e. in greeting the teacher or other students). Over the course students will experience English in a number of formats (reading, listening, music etc) and will be expected to communicate in English and sing songs.						
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	Singular and plural nouns		Grammar introduction to count / non-count nouns. Using, "there is a pen", "there are some pens" etc.			
2	How much / How many?		How much and How many questions.			
3	Present Simple.		Using present simple and changing verb forms with I / We / You / They and He / She / It.			
4	Past Simple. What did you / he / she do?		Grammar introduction to past simple. How verb form changes (regular / irregular) and their difference to present simple.			
5	Ability and possibility		Grammar introduction to can / can't / be able to, etc			
6	What do you like?		Talking about likes / dislikes.			
7	Fun and Games.		Review lesson focusing on using the language covered in weeks 1-6 using games and activities.			
8	Going to the zoo / Mini-Test.		Animal names for zoo or farm animals. Playing games and spelling activities. Mini-Test (15%).			
9	Who / What / Which?		Grammar introduction to question words and question format.			
10	Grammar - Conditionals.		Grammar introduction to using if / until / after / before. Review of days / months. Songs - If you're happy and you know it.			
11	Classroom language.		Classroom language using "colouring time" as the focus.			
12	Adverbs of Frequency.		Grammar introduction to adverbs of frequency.			
13	Christmas And The Holidays.		A Christmas focused lesson; games and party time language.			
14	Obligations.		Grammar introduction to must / may / should / shall etc.			
15	Places and Jobs.		Places around town and the countryside. Common job names.			
期末試験	Examination		評価方法	筆記試験	70%	小テスト
				受講態度	15%	
【教科書】: Test of English for Early Childhood Educators - Course Book 4.						
【参考書】:						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】:						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】:		

授業名： 健康・スポーツ理論

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	こども未来学科	【学年】	1	
鍋山 友子	高等学校 36年勤務	鍋山	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	8(15)	
			【曜日・コマ】	月 1	【授業形態・単位】	講義 1	
【授業の概要】 運動と健康の関係を科学的にとらえ、運動による健康の維持・増進に関わる知識を修得する。また、健康で心豊かに生きていくために必要なことは何かを考える。					【受講して得られる力】 前に踏み出す力 考え抜く力		
【学習目標(到達目標)】 ①長寿社会がもたらす問題点を知り、健康寿命の意味を考え実践に結びつける。 ②脳の活性化を図るにはどうすれば良いか、またストレス解消法を学び実践する。 ③性感染症の予防を初め、世界で起きている健康問題について深く考える。							
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)					
1	健康と運動、寿命	健康とは何か、心の健康と運動との関わりについて理解する。 平均寿命・健康寿命の意味、命の大切さについて考え、自分の意見を発表する。					
2	「高齢者の脳」DVD鑑賞	少子高齢化が進む中、高齢者を取り巻く環境について考える。 100歳を過ぎても元気な秘訣は何かを考え、自分の意見を発表する。					
3	超高齢者 センテナリアン	超高齢者と呼ばれる人の元気な秘訣はどこにあるのかを考える。 身体状況・栄養・精神面で、最新の化学的分析についての知見を得る。					
4	運動と美、生涯スポーツ DVD鑑賞	運動・スポーツの身・体・美について考え、実践に結びつける糸口を見つける。 舞踊美を鑑賞し、映像を通して運動効果について考える。					
5	睡眠・休養・ストレス、「子どもの短眠化」	ストレスを解消し健康的な生活を送るにはどうすれば良いかを考える。 子どもの睡眠の重要性を理解する。					
6	アルコールとタバコの害	アルコールによる健康被害について理解を深める。 タバコの害について理解し、禁煙対策と健康への意識を高める。					
7	エイズとその予防	エイズウイルスの感染とその予防について理解を深める。 エイズウイルスの感染を治す最新治療についての知見を得る。					
8	クラミジア感染症 DVD鑑賞、事故災害・救急処置	クラミジア感染症の症状・診断・治療についての知見を得る。 現代社会と事故災害の因果関係について考える。					
9	現代社会と健康 DVD鑑賞、授業の振り返りレポート作成	社会生活と健康問題・家族の健康について考える。 世界で起きている健康問題について深く考える。					
10							
11							
12							
13							
14							
15							
期末試験	毎時間の課題レポート	評価方法	レポート	90%			
			課題の達成度	10%			
【教科書】参考資料を適宜配付する。							
【参考書】女性の健康と運動【現代教育者】 健康管理概論【同文書院】							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】予習と復習を兼ねた課題レポートを毎回作成する。							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

授業名： 健康・スポーツ実技

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	こども未来学科	【学年】	1
鍋山 友子	高等学校 36年勤務	鍋山	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	木 4	【授業形態・単位】	演習 1
【授業の概要】 自己の健康・維持増進を図り、生涯スポーツへと繋げる運動技能を獲得する。 さらに、これまで体験してきた球技やレクリエーション種目等の技術向上を図る。					【受講して得られる力】 チームで働く力 前に踏み出す力 コミュニケーション技術	
【学習目標(到達目標)】 ①各種のスポーツに触れ、実践することで基礎的な運動技能を高める。 ②簡易ゲームを段階を追って行い、チームワークと技術向上を図る。 ③楽しみながら実践することでコミュニケーション力を高める。						
【履修上の注意】		運動着・シューズの着用と水分補給のための飲料を持参すること。				
回数	授業のテーマ(担当教)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	ガイダンス、レクリエーション種目・球技	生涯スポーツの意義と授業内容について ストレッチ体操・縄跳びフライングディスク・バレーボール(共に基礎練習)				
2	レクリエーション種目、球技	ストレッチ体操・縄跳び・ドッチビー(簡易ゲーム) バレーボール(簡易ゲーム)				
3	レクリエーション種目、球技	ストレッチ体操・縄跳び・ドッチビー(簡易ゲーム) バレーボール(簡易ゲーム)				
4	球技、到達度確認	ストレッチ体操・縄跳び・バドミントン(ラリーを楽しむ) バレーボール(到達度確認)				
5	球技	ストレッチ体操・縄跳び・バドミントン(ラリーを楽しむ) バレーボール(簡易ゲーム)				
6	球技	ストレッチ体操・縄跳び・バドミントン(簡易ゲーム) バレーボール(簡易ゲーム)				
7	球技	ストレッチ体操・縄跳び・バドミントン(到達度確認) バスケットボール(基礎練習)				
8	球技	ストレッチ体操・縄跳び・バドミントン(簡易ゲーム) バスケットボール(簡易ゲーム)				
9	球技	ストレッチ体操・縄跳び・卓球(基礎練習) バスケットボール(簡易ゲーム)				
10	球技	ストレッチ体操・縄跳び・卓球(簡易ゲーム) バスケットボール(簡易ゲーム)				
11	現代的なリズムのダンス、球技到達度確認	ストレッチ体操・縄跳びヒップホップ(3分の1迄覚える) バスケットボール(到達度確認)				
12	現代的なリズムのダンス、球技	ストレッチ体操・縄跳び・ヒップホップ(3分の2迄覚える) バスケットボール(簡易ゲーム)				
13	現代的なリズムのダンス、球技・ニュースポーツ	ストレッチ体操・縄跳びヒップホップ(最後迄覚える) 卓球(簡易ゲーム)・インディアカ(基礎練習・ラリー)				
14	現代的なリズムのダンス、球技・到達度確認・ニュースポーツ	ストレッチ体操・縄跳び・ヒップホップ(踊り込み) 卓球(到達度確認)・インディアカ(簡易ゲーム)				
15	現代的なリズムのダンス・発表会、ニュースポーツ・到達度確認	ストレッチ体操・縄跳び・ヒップホップ(発表会) インディアカ(到達度確認)				
期末試験	縄跳び等受講態度・実技テスト 振り返りレポート	評価方法	実技試験	70%	受講態度	10%
			レポート	20%		0%
【教科書】特に使用しないが、必要に応じて資料を配付する。						
【参考書】特になし						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】日頃からストレッチ・ジョギング・筋トレ等を行い基礎体力を養う。						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】			
			教員室にて			

授業名： 保育原理

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	こども未来学科	【学年】	1	
細川 梢	児童福祉施設 7年勤務	細川	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)	
			【曜日・コマ】	火 1	【授業形態・単位】	講義 2	
【授業の概要】 保育の意義を中心に、保育所保育における保育の基本について理解を深め、保育士にとって必要かつ基本的な認識を得られるよう具体的に学ぶ。					【受講して得られる力】 考え抜く力 発達援助技術 生活援助技術 環境構成技術		
【学習目標(到達目標)】 ①保育の意義、内容、方法を理解する。 ②保育所保育指針における保育の基本を理解する。 ③保育の思想と歴史的変遷について理解する。 ④保育の現状と課題を理解する。							
【履修上の注意】 授業中、教員の発言や疑問点はメモを取るようになしてください。							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	オリエンテーション		授業の内容や進み方、履修上の注意点を理解する。				
2	保育の意義		保育の理念や概念、言葉の意味を理解する。				
3	保育制度		保育を必要とする事項や保育、保育の利用方法を理解する。				
4	児童の最善の利益を考慮した保育		子どもの権利に関する法律や条約の内容から、児童の最善の利益について理解する。				
5	子ども・子育て関連制度		子ども子育て関連3法の内容から、現在の保育の展望を理解する。				
6	保育所保育指針における保育の基本		保育所の役割や保育の目標を理解する。				
7	保育所保育指針における保育の基本		保育所保育が目指す具体的な保育の方法や環境を理解する。				
8	保育所保育指針における保育の基本		保育は養護と教育が一体となって展開されていることを理解する。				
9	発達過程に応じた保育		発達過程を知る意味と発達を捉える視点を理解する。				
10	保護者との緊密な連携		保護者と連携する意味と子育て支援の基本的考えについて理解する。				
11	保育士の倫理		倫理観に裏付けられた保育士の専門性とは何か、全国保育士会倫理綱領を参照しながら理解する。				
12	保育の計画		保育の計画の必要性と、長時間保育と0歳児保育が子どもに与える影響について理解する。				
13	個と集団のバランス		保育における集団サイズの違いとその特性を理解する。 障害のある子どもや個人差への配慮の視点を理解する。				
14	保育の歴史		諸外国と日本の保育の歴史を知り、現代の保育との繋がりを理解する。				
15	日本の保育課題		日本の保育を国際比較し、今後の保育現場の課題を知る。				
期末試験	筆記試験		評価方法	小テスト	10%	筆記試験	50%
				受講態度	40%		
【教科書】最新保育士養成講座第1巻 保育原理—保育原理／乳児保育(全国社会福祉協議会) 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(チャイルド本社)							
【参考書】							
【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】授業の学習箇所に関する教科書の該当ページを読んで、復習をしましょう。							
【本講義に関する質問先】			担当教員		【質問方法】 教員室にて		

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	こども未来学科	【学年】	1	
鈴木佳代子	幼稚園・保育所 42年勤務	鈴木	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)	
			【曜日・コマ】	水 1	【授業形態・単位】	講義 2	
【授業の概要】 教育の理念や教育に関する歴史・思想について学び、教育学の基礎的な考え方を理解するための学習を中心として、制度や計画・方法に関する基礎的な事柄についても学ぶ。知識として身に付けなければならないものも多いが自分なりに考える姿勢も育てる。					【受講して得られる力】 前に踏み出す力 考え抜く力 発達援助技術		
【学習目標(到達目標)】 ①教育の意義、目的及び子ども家庭福祉等との関わりについて理解する。 ②教育の思想と歴史的変遷について学び、教育に関する基礎的な理論について理解する。 ③教育の制度について理解する。 ④教育実践の様々な取り組みについて理解する。 ⑤生涯学習社会における教育の現状と課題について理解する。							
【履修上の注意】 教科書等の持参物は忘れないよう注意すること。							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	教育の意義、目的及び子ども家庭福祉等の関連性①		授業の概念や評価などについて理解する。 教育の意義を理解する。				
2	教育の意義、目的及び子ども家庭福祉等の関連性②		教育基本法「教育の目的」について理解する。				
3	教育の意義、目的及び子ども家庭福祉等の関連性③		乳幼児期の教育の特性を理解する。				
4	教育の意義、目的及び子ども家庭福祉等の関連性④		教育と子ども家庭福祉の関連性を理解する。				
5	教育の意義、目的及び子ども家庭福祉等の関連性⑤		人間形成と家庭・地域・社会等との関連性を理解する。				
6	教育の思想と歴史的変遷①		諸外国の教育の思想と歴史を理解する。				
7	教育の思想と歴史的変遷②		日本の教育の思想と歴史を理解する。				
8	教育の思想と歴史的変遷③		子ども観と教育観の変遷を理解する。				
9	教育の制度①		教育制度の基礎を理解する。				
10	教育の制度②		教育法規・教育行政の基礎を理解する。				
11	教育の制度③		諸外国の学校制度を理解する。				
12	教育の実践①		教育実践の基礎と教育理論(内容・方法・計画と評価)を理解する。				
13	教育の実践②		教育実践の多様な取り組みを理解する。				
14	生涯学習社会における教育の現状と課題①		生涯学習社会と教育を理解する。				
15	生涯学習社会における教育の現状と課題②		現代の教育課題や保育士の役割・課題を理解する。				
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験	40%	受講態度	20%
				小テスト	20%	課題の達成度	20%
【教科書】最新保育士養成講座 第2巻 教育原理(全国社会福祉協議会)							
【参考書】保育所保育指針解説 保育福祉小六法(ミネルヴァ書房)							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】授業テーマの課題を事前に提出すること。							
【本講義に関する質問先】			担当教員		【質問方法】		教員室にて

授業名： 子ども家庭福祉

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	こども未来学科	【学年】	1	
佐藤 篤	一般	細川	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)	
			【曜日・コマ】	月 1	【授業形態・単位】	講義 2	
【授業の概要】 子どもを取り巻く環境の現状と課題, より複雑化している現象等を取り上げ, これからの子ども家庭福祉の方向性について考察する					【受講して得られる力】 前に踏み出す力 考え抜く力 チームで働く力		
【学習目標(到達目標)】 ①子ども家庭福祉の「理念」を理解する ②子ども家庭福祉の「社会的諸サービス」を理解する ③子ども家庭福祉の「関連専門職」を理解する							
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)					
1	オリエンテーション	子ども家庭福祉とは何か 講義についての主旨説明					
2	子どもを取り巻く環境	家庭環境の変容やそれに伴う子どもへの影響 機能不全家族とは					
3	子ども家庭福祉の理念	子ども家庭福祉関連法について理解する 児童福祉法から各関連法について					
4	子ども家庭福祉の歴史①	子ども家庭福祉の成り立ち, 戦前の子ども家庭福祉 歴史的背景を理解する					
5	子ども家庭福祉の歴史②	戦後の子ども家庭福祉 歴史的背景を理解する					
6	子ども家庭福祉の実施体制①	子ども家庭福祉に関連する各種機関について理解する 児童相談所, 福祉事務所等社会サービスについて					
7	子ども家庭福祉の実施体制②	子ども家庭福祉に関連する各種機関について理解する 児童相談所, 福祉事務所等社会サービスについて					
8	児童の権利に関する条約	子どもの権利について 条約等, 子どもの権利を保障するものとは					
9	障害児福祉	障害児への福祉とは 障害児のための福祉施策・サービスとは					
10	子ども家庭福祉の諸問題①	児童虐待と対策, 関連法について 被虐待児, 虐待者について考察する					
11	子ども家庭福祉の諸問題②	非行児童, 障害児のための福祉サービス 少年法, 育児・介護休業法等					
12	子ども家庭福祉の諸問題③	ひとり親家庭のための福祉サービス 母子及び父子並びに寡婦福祉法					
13	子ども家庭福祉の財政状況	子ども家庭福祉を支える財源 国, 地方公共団体それぞれの役割					
14	子ども家庭福祉の専門職	子ども家庭福祉専門職, 行政機関の専門職 関連分野の連携と調整					
15	まとめ						
期末試験	筆記試験	評価方法	授業への貢献	20%	レポート	20%	
			筆記試験	60%			
【教科書】最新保育士養成講座 第3巻 子ども家庭福祉(全国社会福祉協議会)							
【参考書】							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】予習・復習をして知識を定着させましょう							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

授業名： 社会福祉

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	こども未来学科	【学年】	1	
佐藤 篤	有料 老人ホーム 3年勤務	細川	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)	
			【曜日・コマ】	木 1	【授業形態・単位】	講義 2	
【授業の概要】 社会福祉の基礎的理解を目的とし、社会福祉の考え方・法制度・技術・歴史等の理解を深める。ソーシャルワーク演習も実施する。					【受講して得られる力】 前に踏み出す力 考え抜く力 チームで働く力		
【学習目標(到達目標)】 ①社会福祉の基礎的理解 ②社会福祉専門職としての自律性の体得 ③自らの行動指針を確立させる							
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)					
1	オリエンテーション	社会福祉とは何か 講義についての主旨説明					
2	社会福祉の思想・理念	現代社会について 社会福祉の考え方について					
3	社会福祉の歴史	社会福祉の歴史について 社会生活の変遷を辿る					
4	社会福祉の法律・制度	社会福祉基礎構造改革について 社会福祉制度改革の流れと現行制度の特長について理解する					
5	社会福祉法について	社会福祉法について 社会福祉法の特徴について					
6	介護保険法について	介護保険法について 介護保険法の特徴について理解する					
7	生活保護について	生活保護制度について 生活保護制度の特徴について理解する					
8	年金制度と雇用について	年金制度と雇用について 高齢・障がいのある方の年金制度の理解と雇用の意味について理解する					
9	人権保障に関する制度	日常生活自立支援事業と成年後見制度について 日常生活自立支援事業と成年後見制度の概要について理解する					
10	ソーシャルワーク①	ソーシャルワークとは 自己覚知・受容と福祉の対象について					
11	ソーシャルワーク②	ソーシャルワークとは ケースワーク・グループワークの基礎					
12	受容と共感	個性と多様性について 自身の個性を知る					
13	専門対人援助関係の形成	専門職業的自分、私的自分 プロとアマチュアとは何か考える					
14	地域福祉	地域福祉をキーワードに福祉の方向性について考える 振り返りを行い、考えをまとめる					
15	まとめ						
期末試験	筆記試験	評価方法	授業への貢献	20%	レポート	20%	
			筆記試験	60%			
【教科書】最新保育士養成講座 第4巻 社会福祉(全国社会福祉協議会)							
【参考書】							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】予習・復習をして知識を定着させましょう							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	こども未来学科	【学年】	1	
細川 梢	児童福祉施設 7年勤務	細川	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)	
			【曜日・コマ】	火 2	【授業形態・単位】	講義 2	
【授業の概要】 社会的養護の意義や歴史の変遷、制度について学び、児童も一人の人間であることを理解する。また、児童の権利擁護や自立支援についての理解を深められるように具体的に学ぶ。					【受講して得られる力】 考え抜く力 チームで働く力 生活援助技術 相談支援技術		
【学習目標(到達目標)】 ①現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。 ②子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 ③社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 ④社会的養護の対象や形態、関係する専門職などについて理解する。							
【履修上の注意】 書くことを面倒くさがらずに、メモを取る。レポート課題は、文章内容、分量に気を付けること。							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	オリエンテーション		授業の内容や進み方、履修上の注意点について理解する。				
2	社会的養護の理念と概念		理念や概念を知り、現代が目指す社会的養護の全体像を理解する。				
3	社会的養護の歴史の変遷		社会的養護の成り立ちと、保護を必要とする子どもの背景を理解する。				
4	児童の権利と社会的養護		子どもの権利を守ることを意味を、子どもの権利条約を通して理解する。				
5	社会的養護の仕組み		社会的養護の体系と一時保護の流れを理解する。				
6	施設養護の実際		乳児院で暮らす子どもたちと施設の役割を、映像を通して理解する。				
7	施設養護の実際		児童養護施設で暮らす子どもたちと施設の役割を、映像を通して理解する。				
8	施設養護の実際		福祉型障害児入所施設で暮らす子どもたちと施設の役割を、映像を通して理解する。				
9	施設養護の実際		医療型障害児入所施設で暮らす子どもたちと施設の役割を、映像を通して理解する。				
10	施設養護の実際		児童自立支援施設の役割と、非行児童の支援を映像を通して理解する。				
11	施設養護の実際		児童心理治療施設の役割と、被虐待児や発達障害児の支援を映像を通して理解する。				
12	家庭養護の実際		里親制度の理解と、里親家庭で暮らす子どもたちの背景を映像を通して理解する。				
13	児童福祉施設で働く専門職		社会的養護に携わる専門職種の種類と仕事内容を理解する。				
14	被虐待児の特徴		被虐待児に見られる行動とその意味を、育ちの背景から理解する。				
15	施設養護の基本原則と展望		社会的養護に求められている役割と、児童養護施設の今後の展望を理解する。				
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験	40%	レポート	30%
				受講態度	30%		
【教科書】現代の保育と社会的養護(勁草書房)							
【参考書】最新保育士養成養成講座 第3巻 子ども家庭福祉(全社協)							
【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】児童虐待、子ども(障害児)の社会問題を、ニュースで調べたり、今後の参考となる情報収集をすること。							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて ※ノート提出時でも可

授業名： 保育の心理学

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	こども未来学科	【学年】	1	
小坂 徹	一般	細川	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)	
			【曜日・コマ】	水 2	【授業形態・単位】	講義 2	
【授業の概要】 子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、子どもの理解を深めるとともに、乳幼児期の子どもの学びの過程や特性についての基礎的な知識を習得し、保育の意義を理解する。					【受講して得られる力】 前に踏み出す力 考え抜く力 発達援助技術		
【学習目標(到達目標)】 ①保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。 ②子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。 ③乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。							
【履修上の注意】教科書はもちろんのこと、参考書も毎回持参すること。							
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)					
1	オリエンテーション	講義概要と学習目標について理解する。 成績評価の方法と履修上の注意点について理解する。					
2	子どもの発達を理解することの意義	子ども理解には大別すると2つの方法があること、保育実践の基盤は子ども理解にあることを学ぶ。					
3	子どもの発達と環境	子どもの発達と環境との関係に関する理論的背景について学び、保育の場における発達の支援の在り方や現代的課題について考える。					
4	発達理論と子ども観・保育観	自らの発達観、子ども観、保育観といった価値観を自覚することの重要性について学ぶとともに、その多様性や課題について考える。					
5	社会情動的発達①自己と感情	乳幼児期の自己意識の発達に感情がいかに関係しているかを学び、環境に適應するために必要となる自己調整や感情調整の問題について学ぶ。					
6	社会情動的発達②他者理解	子どもたちが他者とのように関わり、自分や社会の理解をどのように深めていくのかを探る。					
7	社会情動的発達③他者との関わり	乳児期の他者志向性の萌芽にみられる現象や社会性の発達指標となる行動について学び、養育者との愛着がどのように関わるのかを理解する。					
8	身体的機能と運動機能の発達	乳幼児期の身体と運動の基本的な発達について学び、保育者が子どもに対してどのように関わるかが求められるかについて理解する。					
9	認知の発達①認識の基礎	認知とは何かについて理解し、その認知の発達に関する基礎知識を学び、乳幼児期の認知の特徴、および保育援助との関係について学ぶ。					
10	認知の発達②数と形	乳幼児期の数量概念ならびに形の認識と幾何学的思考に関する発達について学び、就学後の算数の学習とどのように関わるかについて考える。					
11	認知の発達③言葉と文字	ことばのはたらきをとらえた上で、子どもの話し言葉と書き言葉(文字)の発達過程を理解する。その際の保育者の援助の在り方についても考える。					
12	乳幼児期の学びに関わる理論	多くある「学び」の理論について、比較したり、時代を負ってみていくことで、その概要や考え方の違いや発展について学ぶ。					
13	乳幼児期の学びの過程と特性 ①認知的学び	乳幼児期における遊びを通じた学びの重要性と特徴について事例を通して学び、その学びに対する社会や文化の影響について理解する。					
14	乳幼児期の学びの過程と特性 ②社会情動的学び	保育実践場面でのエピソードを交えながら、関わり合いのなかで見えてくる社会情動的学びのありようを学び、保育実践への視野を広げる。					
15	乳幼児期の学びを支える保育	学びを支える保育について、子どもの生活や遊びからいかに学びを引き出すかという課題と、子どもはいかに他者と学びあうかについて着目し、学ぶ。					
期末試験	筆記試験	評価方法	授業への貢献	20%	筆記試験	40%	
			課題の達成度	40%			
【教科書】最新保育士養成講座 第6巻 子どもの発達理解と援助(全社協)							
【参考書】幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(チャイルド本社)							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】各授業ごとの課題の事前のレポート提出。							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

授業名： 子どもの理解と援助

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	こども未来学科	【学年】	1
小坂 徹	一般	細川	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	水 2	【授業形態・単位】	演習 1
【授業の概要】 子どもの発達や学びに関する心理学の知見を、単なる知識にとどめず、保育者が実践に即して使いこなすことが求められるようになった現状を踏まえて見直しされた科目である。位置付けは「保育の対象の理解に関する科目」で従来の「保育の心理学Ⅱ」と同様であるが、目標には大きな違いがあり、下記の学習目標が科目としての目標である。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 ①保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。 ②子どもの体験や学びの過程をにおいて、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。 ③子どもを理解するための具体的な方法を理解する。 ④子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。					考え抜く力 チームで働く力 発達援助技術 生活援助技術 環境構成技術 コミュニケーション技術	
【履修上の注意】教科書はもちろんのこと、参考書も毎回持参すること。						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	オリエンテーション 保育における子ども理解の意義	講義概要と学習目標について理解する。成績評価の方法と履修上の注意点について理解する。 子ども理解が保育にどのように関わるのかについて学ぶ。				
2	子どもに対する共感的理解と子どもとの関わり	子どもと関わる際に重要とされる共感的理解について、その意味とともに共感的に話を聴く際に効果的な表現方法について学ぶ。				
3	子どもの生活や遊び	乳幼児期の生活習慣の獲得と遊びについて学び、両者についての保育者の関わりや援助について实际的に考える。				
4	保育の人的環境としての保育者と子どもの発達	人的環境としての保育者が、子どもの発達にどのような影響を及ぼすか考えるために、子どもを取り巻く人的環境とその在り方について学び、実践を深めていくために必要な考え方を理解する。				
5	子ども相互の関わりと関係づくり	子ども相互の関わりについて、仲間と関わるきっかけや関わりを継続するために保育者が果たしている役割について学ぶ。				
6	集団における経験と育ち	保育の場において子ども集団がどのように成立するのか、また、そこでの保育者の役割はどのようなものかについて学ぶ。				
7	発達における葛藤やつまずき	仲間とのいざこざと自我の発達に関わる葛藤やつまずきについて、それぞれの発達の变化や特徴を学び、それらを踏まえた保育者の援助やねらいについて理解する。				
8	保育の環境の理解と構成	環境という言葉が何を意味しているのか、保育者は環境を整える存在であるということ、環境を整える際に重要な原則など、基盤となる知識と考え方を学ぶ。				
9	環境の変化や移行	乳幼児が経験する環境の変化や移行、子どもの適応に影響する要因や必要となる援助などについて学び、保護者の心理や援助についても学ぶ。				
10	子ども理解のための観察・記録と省察・評価	子どもを理解する際に重要な視点を学び、観察や記録の方法、発達検査の活用方法を具体的に学び、保育実践における省察や評価の役割を学ぶ。				
11	子ども理解のための職員間の対話	職員間の対話や協働についての基礎知識を学び、保育現場において子ども理解の改善につながる対話と他職種との連携における対話の重要性について学ぶ。				
12	子ども理解のための保護者との情報共有	子ども理解のために保育者が保護者と情報共有する必要性とその具体的方法について学び、その際のポイントについて事例を通して理解する。				
13	発達の課題に応じた援助と関わり	「個人差」と「発達過程」というキーワードを通して子どもの理解を深め、発達の課題に応じた援助と関わりについて学ぶ。				
14	特別な配慮を必要とする子どもの理解と援助	特別な配慮を必要とする子どもを理解するための基礎的な知識や考え方を学び、法制度をふまえて、支援の際に保育者として注意すべき点を学ぶ。				
15	発達の連続性と就学への支援	発達と学びの連続性と、幼児期の終わりまでに育ててほしいすがたについて学び、子どもの戸惑い、保育者・教師や保護者の援助を学ぶ。				
期末試験	筆記試験	評価方法	受講態度	20%	筆記試験	40%
			レポート	40%		
【教科書】最新保育士養成講座 第6巻 子どもの発達理解と援助(全社協)						
【参考書】幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(チャイルド本社)						
【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】各授業ごとの予習課題にたいする事前のレポート提出。						
【本講義に関しての質問先】			【質問方法】			

授業名： 子どもの保健

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	こども未来学科	【学年】	1	
高萩 和子	一般	細川	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)	
			【曜日・コマ】	月 2	【授業形態・単位】	講義 2	
【授業の概要】 子どもの心身の健康増進を図る保険活動の意義を理解し、疾病とその予防法について理解する。					【受講して得られる力】 前に踏み出す力 考え抜く力 チームで働く力 発達援助技術 生活援助技術 環境構成技術 相談支援技術		
【学習目標(到達目標)】 ①子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。 ②子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。 ③子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。 ④子どもの疾病とその予防法及び多職種間の連携・協同の下での適切な対応について理解する。							
【履修上の注意】 履修したことを振り返りながら、次回の講義内容を通読してくること。							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	子どもの心身の健康と保健の意義		保健活動の意義と目的、健康概念と健康指標について				
2	子どもの心身の健康と保健の意義		現代社会における子どもの健康に関する現状課題、地域における保健活動と子どもの虐待防止について				
3	子どもの身体発育・発達と保健		身体発育と保健について				
4	子どもの身体発育・発達と保健		運動機能の発達と保健について				
5	子どもの身体発育・発達と保健		生理機能の発達と保健について				
6	子どもの心身の健康状態とその把握		健康状態の観察、心身の不調などの早期発見について (体温、脈拍数、呼吸数のはかり方)				
7	子どもの心身の健康状態とその把握		発育・発達の把握と健康診断、保護者との情報共有について (身体計測、発育評価方法)				
8	子どもの疾病の予防及び適切な対応		感染症について				
9	子どもの疾病の予防及び適切な対応		アレルギー性疾患について				
10	子どもの疾病の予防及び適切な対応		口と歯の健康、先天性疾患について				
11	子どもの疾病の予防及び適切な対応		循環器、呼吸器、消化器疾患について				
12	子どもの疾病の予防及び適切な対応		脳、神経、目、鼻、耳、運動器、皮膚の病気について				
13	子どもの疾病の予防及び適切な対応		泌尿器、内分泌、血液、こころの病気について				
14	子どものこころとからだのこと		「虐待」—この現代的問題に立ち向かう 脳から見た「健やかな育ち」について				
15	まとめ		前期学習のまとめ				
期末試験	筆記試験		評価方法	受講態度	30%	筆記試験	70%
【教科書】子どもの保健(学建書院)							
【参考書】子どもの保健演習ノート 改訂第3版(診断と治療社)							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】現在、マスメディア等で、子どもの健康についてどのようなことが話題になっているか関心を持ってください。							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

授業名： 保育の計画と評価

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	こども未来学科	【学年】	1
鈴木 佳代子	幼稚園・保育所 42年勤務	鈴木	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	金 1	【授業形態・単位】	講義 2
【授業の概要】 保育の内容と質の向上に資する、保育の計画や評価の基本的方法を学ぶ。また、保育所保育指針と幼稚園教育要領及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領から、全体的な計画と指導計画の作成について具体的に理解する。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 ①保育の内容の充実に資する保育の計画及び評価について理解する。 ②全体的な計画と指導計画の作成について、その意義と方法を理解する。 ③子どもの理解に基づく保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)について、その全体構造を捉え、理解する。					考え抜く力 発達援助技術 生活援助技術 環境構成技術 遊びの展開技術	
【履修上の注意】 教科書等の持参物は忘れないよう注意すること。						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	オリエンテーション	講義内容や進め方、履修上の注意点を理解する。				
2	保育の計画と評価の基本①	カリキュラムの基礎理論を理解する。				
3	保育の計画と評価の基本②	保育における計画と評価の意義を理解する。				
4	保育の計画と評価の基本③	子どもの理解に基づく保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)の循環による保育の質の向上を理解する。				
5	保育所における保育の計画①	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容及び社会的背景を理解する。				
6	保育所における保育の計画②	保育所保育指針における保育の目標と計画の基本的考え方を理解する。				
7	保育所における保育の計画③	全体的な計画と指導計画の関係性を理解する。				
8	保育所における保育の計画④	全体的な計画の作成を理解する。				
9	保育所における保育の計画⑤	指導計画(長期的・短期的)の作成を理解する。				
10	保育所における保育の計画⑥	指導計画作成上の留意事項を理解する。				
11	保育所における保育の計画⑦	計画に基づく保育の柔軟な展開を理解する。				
12	保育所における保育の評価①	保育の記録及び省察について理解する。				
13	保育所における保育の評価②	保育士及び保育所の自己評価を理解する。				
14	保育所における保育の評価③	保育の質向上に向けた改善の取組を理解する。				
15	保育所における保育の評価④	生活と発達の連続性を踏まえた保育所児童保育要録について理解する。また、学習を振り返り、保育所の今後の課題を考える。				
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験	40%	課題の達成度	20%
			小テスト	20%	受講態度	20%
【教科書】 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(チャイルド本社) 保育所保育指針解説書(厚生労働省)						
【参考書】						
【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】 実習の本や授業テーマ内容を他教科から学習しておく。						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】 教員室にて		

授業名： 保育内容総論 I

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	こども未来学科	【学年】	1	
鈴木 佳代子	幼稚園・保育所 42年勤務	鈴木	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)	
			【曜日・コマ】	金 4	【授業形態・単位】	演習 1	
【授業の概要】 保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連性を理解する。また、子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史の変遷等を踏まえ、実態に即した保育の過程について理解する。					【受講して得られる力】 考え抜く力 発達援助技術 生活援助技術 遊びの展開技術		
【学習目標(到達目標)】 ① 保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまで育ってほしい内容」の関連性について理解する。 ② 保育所保育指針の各省のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。 ③ 子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史の変遷などを踏まえ、保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)につなげて理解する。 ④ 保育の多様な展開について具体的に理解する。							
【履修上の注意】 教科書等の持参物は忘れないよう注意すること。							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	オリエンテーション		講義概要や学習目標を理解する。 保育所の役割や保育士の役割等を理解する。				
2	保育の全体構造と保育内容①		保育所保育指針に基づく保育の全体構造と保育内容を理解をする。				
3	保育の全体構造と保育内容②		保育の内容の歴史の変遷とその社会的背景を理解する。				
4	保育の全体構造と保育内容③		子どもの発達や生活に即した保育の内容の基本的な考え方を理解する。				
5	保育の基本を踏まえた保育の内容と展開①		「保育の基本的な考え方」を理解する。				
6	保育の基本を踏まえた保育の内容と展開②		養護及び教育が一体的に展開する保育を理解する。				
7	保育の基本を踏まえた保育の内容と展開③		子どもの主体性を尊重する保育を理解する。				
8	保育の基本を踏まえた保育の内容と展開④		環境を通して行う保育について理解する。				
9	保育の基本を踏まえた保育の内容と展開⑤		指導計画(長期的・短期的)の作成を理解する。				
10	保育の基本を踏まえた保育の内容と展開⑥		個と集団の発達を踏まえた保育を理解する。				
11	保育の基本を踏まえた保育の内容と展開⑦		家庭や地域、小学校等との連携を踏まえた保育等を理解する。				
12	保育の多様な展開①		長時間の保育を理解する。				
13	保育の多様な展開②		特別な配慮を要する子どもの保育を理解する。				
14	保育の多様な展開③		多文化共生の保育を理解する。				
15	まとめ		学習を振り返り、保育の現状を理解し今日的課題を理解する。				
期末試験	期末試験		評価方法	筆記試験	40%	課題の達成度	40%
				受講態度	20%		
【教科書】 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(チャイルド本社) 保育所保育指針解説書(厚生労働省)							
【参考書】							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 保育士や多文化経験者に体験談等を聞き、保育との関連性について考える。							
【本講義に関する質問先】 担当教員			【質問方法】 教員室にて				

授業名： 健康指導法

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	こども未来学科	【学年】	1
鍋山 友子	高等学校 36年勤務	鍋山	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	月 3	【授業形態・単位】	演習 1
【授業の概要】 保育の内容を総合的に理解し、子どもの発達を領域「健康の観点」からとらえる。					【受講して得られる力】 考え抜く力 発達援助技術 生活援助技術 遊びの展開技術	
【学習目標(到達目標)】 ①子どもの発達を「健康」の観点から捉え、子どもについての理解を深める。 ②養護と教育に関わる保育の内容を具体的に学ぶ。 ③保育者の役割とは何かを考え、実践に役立つ知見を得る。						
【履修上の注意】 毎時間の課題レポートの作成を励行すること。						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	第1章 保育の基本と領域「健康」	保育とは何かを考え、保育所の保育と家庭での子育ての違いを理解する。 保育の基本とは何かを考え、子どもと保護者との関係について考える。				
2	第1章 保育の基本と領域「健康」	保育の専門性から子ども理解、計画、実践評価について学ぶ。 乳幼児期の発達の見方・捉え方について考える。				
3	第2章 乳幼児期の健やかな心と身体	乳幼児期の心の安定を支える保育者との関わりについて考える。 乳幼児期の生活リズムや生活習慣の発達についての知見を得る。				
4	第2章 乳幼児期の健やかな心と身体	乳幼児の遊びと活動意欲の発達・安全について理解を深める。 乳幼児期に培いたい「食」の問題について考える。				
5	第3章 保育方法及び運動遊び実践	領域「健康」の考え方と指導計画について理解を深める。 いろいろな運動遊びについて理解し、実践する。				
6	第3章 保育方法及び運動遊び実践	「健康」の考え方と環境構成について考える。 新聞紙を利用した手作りボールで遊びの実践をする。				
7	第4章 保育の実際及び運動遊び実践	安定感を持つ保育者の関わりについて考える。 いろいろな運動遊びを実践し、戸外遊びの環境について考える。				
8	第4章 保育の実際・「食」のDVD鑑賞	園での生活の場を整えるにはどのようにしたら良いかを考える。 「食の乱れが止まらない対処法」を鑑賞し、意見を出し合い発表する。				
9	第4章 保育の実際・「遊具」のDVD鑑賞	危険や安全に関心を持たせる保育者の役割について考える。 「公園から遊具が消える」を鑑賞し、意見を出し合い発表する。				
10	第5章 「健康」の指導上の留意事項	子どもの体力作りの方法について知見を得る。 活発な遊びで幼児期の運動体力は身につくことを理解する。				
11	第5章 指導上の留意事項・運動遊び実践	子どもの遊び特性に配慮した園庭・遊具とは何かを考える。 伝承遊びの実践を通して伝承遊びの魅力とは何かを考える。				
12	第5章 「健康」の指導上の留意事項	運動意欲を育む指導のあり方について考える。 運動指導頻度と運動能力はなぜ反比例するのかを考える。				
13	遊具製作	保育環境の安全性はどのようにあるべきかを考える。 新聞紙を利用した運動遊びの遊具を製作する。				
14	運動遊びの実践	製作した遊具を実際に用いて、どのような遊びを展開できるか実践する。 実際に使ってみて製作した遊具はどうだったか、改良点等を探ってみる。				
15	運動遊びの指導計画立案・運動遊びの実践・振り返り	楽しい運動遊びの指導計画を立て、実践する。 実践した結果どうだったか、まとめと振り返りを行ない発表する。				
期末試験	毎時間の課題レポートと製作物	評価方法	レポート	80%		
			課題の達成度	20%		
【教科書】参考資料を適宜配付する。						
【参考書】幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園・保育要領(チャイルド本社) 保育内容「健康」(ミネルヴウア書房)						
【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】 予習と復習を兼ねたレポートを毎回作成する。						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて		

授業名： 人間関係指導法

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	こども未来学科	【学年】	1	
勝見 恵子	幼稚園・保育所 30年勤務	勝見	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)	
			【曜日・コマ】	水 3	【授業形態・単位】	演習 1	
【授業の概要】 子どもの理解を深め、他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う発達の援助について具体的に学ぶ。					【受講して得られる力】 発達援助技術 遊びの展開技術 コミュニケーション技術 環境構成技術 考え抜く力		
【学習目標(到達目標)】 保育所保育指針 領域「人間関係」のねらい及び内容について理解する。また、保育者として人との関わりを育てていくための保育の方法を身に付ける。							
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)					
1	保育内容「人間関係」	保育所保育指針における人間関係 領域「人間関係」の「ねらい」及び「内容」を理解する。					
2	実際の保育場面における「人間関係」	生活の中の人とのかかわりについて 子どもの遊ぶ姿を観察し、どのような経験をしているのか考える。					
3	実際の保育場面における「人間関係」	生活の中の人とのかかわりについて 子どもの遊ぶ姿を観察し、どのような経験をしているのか考える。					
4	実際の保育場面における「人間関係」	生活の中の人とのかかわりについて 子どもの生活している姿を観察し、どのような経験をしているのか考える。					
5	実際の保育場面における「人間関係」	生活の中の人とのかかわりについて 子どもの生活している姿を観察し、どのような経験をしているのか考える。					
6	子どもの発達と「人間関係」	0歳児の発達と領域「人間関係」 愛着形成の理論と保育者と子どもの愛着関係について学ぶ。					
7	子どもの発達と「人間関係」	1～3歳未満の発達と領域「人間関係」 人との関わり発達と保育者の援助について学ぶ。					
8	子どもの発達と「人間関係」	3歳以上児の発達と領域「人間関係」 人との関わり発達と保育者の援助について学ぶ。					
9	遊びの中で育つ「人間関係」	いざこざ・けんかななどのトラブル いざこざやトラブルを通じた子どもの心の育ちを理解し、発達を踏まえた援助について学ぶ。					
10	遊びの中で育つ「人間関係」	自立心の育ち・協同性の育ち 自立心・協同性を育むための環境及び援助について学ぶ。					
11	遊びの中で育つ「人間関係」	道徳性・規範意識 幼児期にふさわしい道徳性、規範意識を育むための保育者の役割について考える。					
12	遊びの中で育つ「人間関係」	個と集団の育ち 個の育ちは集団を高め、集団の育ちは個を育てることを理解し保育者の援助について学ぶ。					
13	遊びの中で育つ「人間関係」	社会生活との関わり 家庭・園・地域での生活の連続性を踏まえた保育について考える。					
14	「人間関係」を育てる保育実践①	行事で育む人間関係 人間関係を育む行事を企画し、人との関わりを考慮した保育者の援助について考える。					
15	「人間関係」を育てる保育実践②	行事で育む人間関係 実践を通して、行事を通して育つ人間関係について考える。					
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験	50%	課題の達成度	20%	
			受講態度	30%			
【教科書】対話的・深い学びの保育内容「人間関係」(萌文書林) 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(チャイルド本社)							
【参考書】							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】ボランティアで出会った子どもや保育士をしっかりと観察し、記録すること。							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

授業名： 環境指導法

※実務経験のある教員の授業科目

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	こども未来学科	【学年】	1
田母神 知加子		田母神	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)
幼稚園・保育所 11年勤務			【曜日・コマ】	木 2	【授業形態・単位】	演習 1
【授業の概要】 養護と教育にかかわる保育の内容を総合的に理解しつつ、子どもの発達を主に「環境」の領域の観点から捉え、子どもの理解を深めながら、周囲の様々な環境に好奇心や探求心を持ってかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う発達の援助について具体的に学ぶ。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 子どもの発達を「環境」の観点から捉え、子ども理解を深めながら保育内容について具体的に学ぶ。					考え抜く力 遊びの展開技術 環境構成技術 発達援助技術 生活援助技術	
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	子どもをとり巻く環境	環境という言葉の意味を知る				
2	領域「環境」のねらいと内容	幼児教育において育みたい3つの資質・能力を学ぶ 幼児期の終わりまでに育ってほしい具体的な10の姿を学ぶ				
3	自然に親しみ、植物や生き物に触れる	園芸・農業活動を体験する				
4	乳幼児の育ちと領域「環境」	子どもを取り巻く環境について考える 子どもの発達と環境との関わりについて考える				
5	乳幼児の世界と環境	子どもを取り巻く人的環境について学ぶ				
6	物や道具に関わって遊ぶ	子どもを取り巻く物的環境について学ぶ				
7	自然に親しみ、植物や生き物に触れる	五感を使って自然を感じる				
8	自然に親しみ、植物や生き物に触れる	動植物に出会い生命の尊さを感じる				
9	物や道具に関わって遊ぶ	発達に応じたものや道具について考える				
10	安全のための環境	災害・食・不審者に対する安全管理について学ぶ				
11	文字や標識、数量や図形に関心をもつ	子どもにとっての物・数・図形・標識・文字などの認識を知る				
12	文字や標識、数量や図形に関心をもつ	子どもの気づきや発見を促す掲示物について考える				
13	遊びや生活の情報に興味や関心もち、地域に親しむ	地域社会の働きに気づく				
14	遊びや生活の情報に興味や関心もち、地域に親しむ	地域の行事を知る				
15	遊びや生活の情報に興味や関心もち、地域に親しむ	地域の行事に参加し、行事に参加することの大切さを学ぶ				
期末試験	筆記試験	評価方法	課題の達成度	30%	受講態度	30%
			筆記試験	40%		
【教科書】事例で学ぶ保育内容 環境 (萌文書林)						
【参考書】幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(チャイルド本社) 保育所保育指針解説(厚生労働省)						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】 教員室にて			

授業名： 子どもの生活と遊び(表現と運動) I ※実務経験のある教員の授業科目

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	こども未来学科	【学年】	1
鍋山 友子	高等学校 36年勤務	鍋山	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	木 4	【授業形態・単位】	演習 1
【授業の概要】 保育の内容を踏まえて、子どもの生活と遊びにおいてイメージを豊かにし、感性を養うために必要な表現・知識・技術を習得する。					【受講して得られる力】 遊びの展開技術 コミュニケーション技術 チームで働く力	
【学習目標(到達目標)】 ①子どもの生活と遊びにおける様々な遊具や用具を活用する知識・技術を習得する。 ②見立てやごっこ遊び、劇遊び、運動遊び等の表現活動を体験し、技術を習得する。 ③リズムカルに動ける身体作りと保育の具体的展開のための技術を習得する。						
【履修上の注意】 運動着・シューズの着用と水分補給のための飲料を忘れずに持参すること。						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	ガイダンス ストレッチ体操 自己紹介ダンス		授業内容の説明 ストレッチ体操 縄跳び 自己紹介ダンスを踊る。			
2	フォークダンス ①幼児向けダンス		ストレッチ体操 縄跳び フォークダンスを踊る。 一つ目の幼児向けダンスを2分の1まで覚える。			
3	2人組での運動遊び ①幼児向けダンス		ストレッチ体操 縄跳び 2人組での運動遊びを行なう。 一つ目の幼児向けダンスを3分の2まで覚える。			
4	複数組での運動遊び ①幼児向けダンス		ストレッチ体操 縄跳び 複数組での運動遊びを行なう。 一つ目の幼児向けダンスを最後まで覚える。			
5	楽しい運動遊び ①幼児向けダンス		ストレッチ体操 縄跳び フープを用いての運動遊びを行なう。 一つ目の幼児向けダンスの到達度を確認する。			
6	考える力を育てる運動遊び ②幼児向けダンス		ストレッチ体操 縄跳び 氷渡り・ジグソーパズルの運動遊びを行なう。 二つ目の幼児向けダンスを2分の1まで覚える。			
7	数を使った集合遊び ②幼児向けダンス		ストレッチ体操 縄跳び 集合遊びを行なう。 二つ目の幼児向けダンスを3分の2まで覚える。			
8	手具を用いた運動遊び ②幼児向けダンス		ストレッチ体操 縄跳び 風船・ボール遊びを行なう。 二つ目の幼児向けダンスを最後まで覚える。			
9	手作り遊具を使った運動遊び ②幼児向けダンス		ストレッチ体操 縄跳び じゃんけん首飾りを行なう。 二つ目の幼児向けダンスの到達度を確認する。			
10	即興表現遊び 遊園地 幼児向け創作ダンス		ストレッチ体操 縄跳び 遊園地の表現あそびを行なう。 幼児向けのダンスを創作する。①回目			
11	即興表現劇遊び 大きなカブ 幼児向け創作ダンス		ストレッチ体操 縄跳び 大きなカブの表現劇遊びを行なう。 幼児向けのダンスを創作する。②回目			
12	縄を用いての運動遊び 幼児向け創作ダンス		ストレッチ体操 縄跳び 縄を用いての運動遊びを行なう。 幼児向けのダンスを創作する。③回目			
13	即興表現遊び カレーライス 幼児向け創作ダンス		ストレッチ体操 縄跳び カレーライスの表現遊びを行なう。 幼児向けのダンスを創作する。④回目			
14	見立て遊び 鬼ごっこ 幼児向け創作ダンス		ストレッチ体操 縄跳び 鬼ごっこの見立て遊びを行なう。 幼児向けのダンスを創作する。⑤回目で完成と踊り込み			
15	創作ダンス発表会 合評会		完成した幼児向けダンスを発表する。 出来栄えについて合評会を行う。			
期末 試験	縄跳び等受講態度・実技テスト ノート(レポート)の作成を総合評価		評価方法	実技試験 レポート	70% 20%	受講態度 10%
【教科書】 特に使用しないが、必要に応じて資料を配付する。						
【参考書】 幼児の健康と運動遊び(保育出版社) 保育の中の運動遊び(萌文書林)						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 幼児向けダンスの反復練習を復習としてしっかり行うこと。						
【本講義に関しての質問先】 担当教員			【質問方法】 教員室にて			

授業名: 子どもの生活と遊び(音楽とリズム) I

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	こども未来学科	【学年】	1
熊田 桂子	一般	細川	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	金 1・2	【授業形態・単位】	演習 1
【授業の概要】 子どもの音楽表現活動を豊かに展開するために必要な基本的知識と技術を習得する。このために、音楽基礎理論、声楽、鍵盤楽器の技能を習得する。また、身近な音楽に親しむ経験と保育の環境、さらに子どもの経験と音楽表現とを結びつける遊びの展開について学ぶ。					【受講して得られる力】 遊びの展開技術	
【学習目標(到達目標)】 ①楽譜を読むための必要な知識を身につける。 ②季節や生活にかかわる歌やわらべ歌を覚え、歌えるようにする。 ③子どもたちと一緒に歌う歌のピアノ伴奏を弾けるようにする。						
【履修上の注意】 実技の練習をできる限り毎日練習するように努めてください。						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	オリエンテーション	授業内容、目的、授業の進め方について理解する。 自分に必要な音楽活動に関わる力を把握する。				
2	音楽の基礎 生活のうた	楽譜の譜表と音名について学ぶ。歌うときの姿勢と発声について学ぶ。 ピアノを弾く時の姿勢と音階について理解する。				
3	10月のうた①	音符と休符について学ぶ。10月のうたを歌う。 ピアノの基礎練習と簡単な子どものうた一曲練習する。				
4	10月のうた②	拍子とリズムについて学び、リズム打ちをできるようにする。 10月のうたを歌う。ピアノを両手で弾いてみる。				
5	11月のうた①	リズムを体で感じながら、リズム打ちをできるようにする。 輪唱と11月の歌を歌う。簡単な伴奏でピアノを弾く練習をする。				
6	11月のうた②	音名、変化記号について理解する。 11月のうたを歌う。課題の曲をピアノで弾けるようにする。				
7	12月のうた①	コードネームの仕組みについて理解する。 ピアノ伴奏をコードネームを見て弾いてみる。12月のうたを歌う。				
8	12月のうた②	コードネームを見て、簡単な和音を弾けるようにする。 12月のうたを歌う。手遊び歌を歌う。				
9	1月のうた①	コードネームを見て、いろいろな伴奏パターンを練習する。 1月のうたを歌う。振り付けをつけた歌を歌う。				
10	1月のうた②	和音の構成と主要三和音について学ぶ。 1月のうたを歌う。簡単なわらべ歌に簡易楽器演奏をつける。				
11	2月のうた①	楽譜に関わる様々な記号や用語について学ぶ。 2月のうたを歌う。簡単な子どもの歌に簡易楽器演奏をつける。				
12	2月のうた②	楽譜に関わる様々な記号や用語について学ぶ。 2月のうたを歌う。子どもの曲をピアノで練習する。				
13	3月のうた①	いろいろなリズムを理解する。 3月のうたを歌う。子どもの曲をピアノで練習する。				
14	3月のうた②	3月のうたを歌う。実技発表に向けて練習する。				
15	課題練習	実技発表に向けて課題曲を練習する。				
期末試験	筆記・実技試験	評価方法	受講態度	20%	筆記試験	40%
			実技試験	40%		
【教科書】 子どもの歌でいつのまにか上達する 保育者になるためのピアノ教本(エイデル研究所) 幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育(教育芸術社) ジュニアクラスの楽典 テキスト・ワーク(デプロMP)						
【参考書】						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 ピアノの練習を少しでもいいのでできるだけ毎日練習すること。楽典のテキスト・ワークの授業で行った内容を進めておくこと。						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	メール連絡	kumachan@y2.dion.ne.jp	

授業名： 子どもの生活と遊び(感性と創造)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	こども未来学科	【学年】	1		
大城 泰造		一般	細川	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)	
				【曜日・コマ】	火 4	【授業形態・単位】	演習 1	
【授業の概要】 保育内容を理解し、子どもの感性と創造力を豊かにするために必要な基本的知識と技術を習得する。身近な自然やものの色や形、感触やイメージ等に親しむ経験を通して、様々な用具、素材や教材に触れ、保育環境の構成や子どもの感性と創造を育む表現活動に関する保育技術を習得する。				【受講して得られる力】 遊びの展開技術 コミュニケーション技術 環境構成技術				
【学習目標(到達目標)】 ①保育の内容を理解し、子どもの遊びを通して感性と想像力を豊かにするための必要な知識や技術を習得する。 ②造形表現活動に関する知識や技術を習得する。 ③表現活動に係る教材等の活用及び作成と、保育の環境構成及び具体的展開のための技術を習得する。 ④ケースを詳細に分析・検討し、問題解決の過程や方法、理論的根拠等を相互に探求し合い、PDCA型学習を実践できるようになる。								
【履修上の注意】 受講人数等のやむをえない事情により、シラバスの内容を一部修正する可能性があります								
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)						
1	ガイダンス	保育における遊びの役割 保育における感性と創造の重要性を理解し、全体の学びの方法論を習得する。						
2	遊びの表現トレーニング(アナログ画)	表現方法(デジタル画とアナログ画) 自由な表現とは何かを理解し、オイルパステルの使用方法を習得する。						
3	遊びの表現トレーニング(五感のアナログ画)	自由な抽象表現 目に見えないものを表現することにより抽象表現を理解する。						
4	遊びの表現トレーニング(ネガポジ画・手)	純粋輪郭画・修正輪郭画・ネガポジ画 創造力を育む上で必要となる発想法や視点の変換の方法を理解する。						
5	遊びの表現トレーニング(ネガポジ画・人參)	ネガポジ画・画面構成法・教材活用 モチーフ観察の方法論を理解し、多様な画材を用いた表現方法を習得する。						
6	遊びの表現トレーニング(量感画・クロッキー)	表現方法(クロッキーと量感画) ものの形の捉え方や表現方法を理解し、スクイグルやクロツ						
7	遊びの表現トレーニング(量感画・りんご)	表現方法(量感画)・教材活用 五感をつかった表現方法を理解し、量感画法を習得する。						
8	アートコミュニケーション(鑑賞して相手に伝える)	コミュニケーションスキル(言語的コミュニケーション) 作品鑑賞を通じた感想表現によって、コミュニケーションスキルを習得する。						
9	アートコミュニケーション(二人で描く)	コミュニケーションスキル(非言語的コミュニケーション) 共同制作における表現によって非言語コミュニケーションスキルを理解する。						
10	遊びと創造表現グループワーク①	遊び計画案・グループワークⅠ 遊び計画案における作業グループの構成と役割設定を行う。						
11	遊びと創造表現グループワーク②	遊び計画案・グループワークⅡ 関連資料や発達と遊びについてのこれまでの学習を基にした意見を出し合い、相互学習及び検証を行う。						
12	遊びと創造表現グループワーク③	遊び計画案・エバリュエーション—Aグループ 相互評価をおこなう。計画案を発表し、学生相互及び教員との質疑応答を行う。						
13	遊びと創造表現プレゼンテーション①	遊び計画案・プレゼンテーション—実施 ロールプレイング形式のプレゼンテーションを行う。						
14	遊びと創造表現プレゼンテーション②	遊び計画案・プレゼンテーション—実施 ロールプレイング形式のプレゼンテーションを行う。						
15	総括(学びのシェア)	遊び計画案・プレゼンテーション—学びのシェア これまでの総括を行い、意見交換や協議などにおいて学びのシェアを行う。						
期末試験		評価方法	課題の達成度	70%	受講態度	30%		
【教科書】講義内で必要なコピーを配布します。								
【参考書】講義内で必要なコピーを配布します。								
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】ロールプレイングではグループによる事前打ち合わせ、参考作品制作、プレゼンのリハーサル、反省会など予習復習をすること。								
【本講義に関しての質問先】		担当教員	【質問方法】					メール連絡

授業名： 子どもの生活と遊び(言葉と児童文化財) ※実務経験のある教員の授業科目

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	こども未来学科	【学年】	1	
勝見 恵子	幼稚園・保育所 30年勤務	勝見	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)	
			【曜日・コマ】	木 2	【授業形態・単位】	演習 1	
【授業の概要】 昔から受け継がれている歌や遊び、また絵本や紙芝居など様々な児童文化財に触れ、実践を通して子どもの育ちとの関わりについて考え、保育者の役割について学ぶ。					【受講して得られる力】		
【学習目標(到達目標)】 ① 児童文化について知識や技術を身に付ける。 ② 児童文化教材の特性を理解し、教材づくりや保育の展開を理解する。					遊びの展開技術 コミュニケーション技術 環境構成技術 発達援助技術 前に踏み出す力		
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	児童文化とは		子どもと児童文化 児童文化について理解を深め、子どもの育ちとの関係について学ぶ。				
2	絵本		絵本の選び方 子どもの育ちを考えた絵本の選び方や読み聞かせの留意点について学ぶ。				
3	絵本		絵本の読み聞かせ 効果的な絵本の読み聞かせについて実践を通して学ぶ。				
4	絵本		絵本の読み聞かせ 効果的な絵本の読み聞かせについて実践を通して学ぶ。				
5	紙芝居		紙芝居教材研究 紙芝居の特性や魅力について調べる。				
6	紙芝居		紙芝居の演じ方 効果的な演じ方や活用方法について実践を通して学ぶ。				
7	伝承遊び		わらべうた わらべうたの基本的な知識と発達に合った遊びについて学ぶ。				
8	伝承遊び		あやとり 子どもの発達を考えた遊び方について学ぶ。				
9	伝承遊び		言葉遊び 言葉遊びを通して言葉の楽しさや言葉を豊かにする保育について実践を通して学ぶ。				
10	伝承遊び		折り紙 季節を感じるカレンダーを製作する。				
11	伝承遊び		折り紙 季節を感じるカレンダーを製作する。				
12	ペープサート		ペープサート教材研究 ペープサートの特性や魅力、また演じ方や活用する方法について調べる。				
13	ペープサート		ペープサート製作 幼児が楽しめる保育教材を製作する。				
14	ペープサート		ペープサート製作 幼児が楽しめる保育教材を製作する。				
15	ペープサート		ペープサートの演じ方 製作したペープサートで模擬保育を行う。				
期末試験	実技試験 教材を使った模擬保育		評価方法	実技試験 50% 受講態度 30%	課題の達成度	20%	
【教科書】テキストは使用せず、必要に応じてプリントを配布して授業を行います。							
【参考書】言葉と表現力を育む児童文化(萌文書林) 演習 児童文化 保育内容としての実践と展開(萌文書林)							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】A4サイズのリングファイル、折り紙、色鉛筆、のり、はさみを用意してください。							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	こども未来学科	【学年】	1	
渡邊 佐江子	保育所 16年勤務	渡邊	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)	
			【曜日・コマ】	金 4	【授業形態・単位】	講義 2	
【授業の概要】 乳児保育の意義・目的・役割と現状を理解する。乳児期が人格の基礎をつくる時期であることを理解し、一人一人の子どもの発達を保障する保育内容と、子どもに寄り添う保育者の援助の基礎知識を学ぶ。					【受講して得られる力】 前に踏み出す力 考え抜く力 チームで働く力 発達援助技術 生活援助技術 環境構成技術 コミュニケーション技術		
【学習目標(到達目標)】 ①乳児保育の意義・目的と歴史的変遷について理解する。 ②保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 ③3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 ④乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。							
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	オリエンテーション		授業の進め方や授業方法について理解する。 乳児保育の基本となる考え方について理解する。				
2	乳児保育の目的と役割		乳児保育の目的と役割を理解する。 乳児保育における養護と教育の一体性について理解する。				
3	乳児保育の基本		乳児保育の背景や歴史的変遷を知る。多様な場での乳児保育の現状と課題、子育て支援、地域や家庭とのつながりについて理解する。				
4	0・1・2歳児の発達		0・1・2歳児の子どもの運動発達、認知発達、社会性の発達を理解する。				
5	乳児(0歳児)の保育内容		乳児(0歳児)の発達の特徴や過程を理解し、保育内容について学ぶ。				
6	1歳以上3歳未満児の保育内容		1歳以上3歳未満児の発達の特徴や過程を理解し、保育内容について学ぶ。				
7	乳児の生活と遊びの基本		乳児の生活と遊びの基本的事項を捉え、乳児保育における保育者の仕事を理解する。 乳児保育における健康や安全、防災対策について学ぶ。				
8	乳児の生活		乳児の生活(食事・睡眠と休息・排泄・着脱・清潔)について学ぶ。 乳児の生活場面での保育者の援助と配慮について考える。				
9	乳児の遊び①		0・1・2歳児の発達と遊びについて理解し、発達に適した遊びを考える。 保育者の遊びへのかかわりを学ぶ。				
10	乳児の遊び②		0・1・2歳児の発達と遊びについて理解し、発達に適した遊びを考える。 保育者の遊びへのかかわりを学ぶ。				
11	乳児保育の環境構成		0・1・2歳児の保育に必要な環境構成について学ぶ。				
12	乳児保育における全体的な計画		乳児保育における計画の必要性を理解し、全体的な計画及び指導計画の作成、保育の実践、省察・評価、再計画の往還(PDCA)の重要性を学ぶ。				
13	乳児保育における子育て支援		保育者に求められる子育て支援、保護者への対応、支援の実際について学ぶ。				
14	乳児保育における連携		乳児保育での職員、家庭、地域の連携について理解する。 乳児保育の重要性、保育者としての専門性と資質向上について理解する。				
15	授業のまとめ(一人一人を健やかに育てていくために)		授業での学びを振り返り、乳児保育の重要性、保育者の専門性について確認する。				
期末試験	筆記試験		評価方法	受講態度	40%	筆記試験	60%
【教科書】講義で学ぶ乳児保育(わかば社)							
【参考書】幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(チャイルド本社) 保育所保育指針解説(フレーベル館)							
【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】授業内容や自分の学びになったことをノートに整理し復習しておくこと。課題、ノートの提出。							
【本講義に関する質問先】			担当教員		【質問方法】		教員室にて

授業名： 乳児保育Ⅱ

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	こども未来学科	【学年】	1	
渡邊 佐江子	保育所 16年勤務	渡邊	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)	
			【曜日・コマ】	月 2	【授業形態・単位】	演習 1	
【授業の概要】 乳児保育Ⅰで学んだ、乳児保育の基本や養護と教育について実践、演習を通して理解を深める。乳児期の健康・安全と事故予防についての配慮及び他機関との連携や保護者支援について具体的に考える。					【受講して得られる力】 前に踏み出す力 考え抜く力 チームで働く力 発達援助技術 生活援助技術 環境構成技術 コミュニケーション技術		
【学習目標(到達目標)】 ①3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。 ②養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。 ③乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。 ④上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。							
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	乳児保育の基本①		子どもと保育士等との関係の重要性について実習を踏まえて振り返る。				
2	乳児保育の基本②		個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わりを事例を踏まえて考える。				
3	乳児保育の基本③		子どもの主体性を尊重した生活と遊びの展開を理解し、自己の育ちについて事例を踏まえて考える。				
4	乳児保育の基本④		子どもの体験と学びの芽生えの関係性について理解し、家庭との連携の重要性を考える。				
5	乳児保育における環境		子どもの1日の生活の流れと保育の環境について具体的に理解する。子どもの生活や遊びを支える環境の構成について考える。				
6	乳児保育における生活の援助①		乳児の生活の援助について、演習を通して学ぶ。 (抱っこ・おんぶの仕方、衣服の着脱、おむつ替え)				
7	乳児保育における生活の援助②		乳児の生活の援助について、演習を通して学ぶ。 (調乳方法、授乳の仕方、離乳食への移行)				
8	乳児保育における生活の援助③		乳児の生活の援助について、演習を通して学ぶ。 (沐浴方法)				
9	乳児保育における遊びの援助①		3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助について理解する。発達を促す手作りおもちゃを作成する。				
10	乳児保育における遊びの援助②		子ども同士の関わりと援助について考える。 つながり遊びを体験する。				
11	乳児保育における配慮①		子どもの健康・安全への配慮と事故防止について学ぶ。				
12	乳児保育における配慮②		集団生活における配慮、環境の変化や移行に対する配慮について学ぶ。				
13	乳児保育の計画①		長期的な指導計画・短期的な指導計画について具体的に学ぶ。				
14	乳児保育の計画②		個別的な指導計画・集団の指導計画について具体的に学ぶ。				
15	授業のまとめ (一人一人を健やかに育てていくために)		授業での学びを振り返り、乳児保育の実際の援助、保育者の専門的知識について確認する。				
期末試験	筆記試験		評価方法	受講態度	40%	筆記試験	60%
【教科書】講義で学ぶ乳児保育(わかば社)、必要に応じて資料を配布							
【参考書】幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(チャイルド本社) 保育所保育指針解説(フレーベル館)							
【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】授業内容や自分の学びになったことをノートに整理し復習しておくこと。課題、ノートの提出。							
【本講義に関する質問先】			担当教員		【質問方法】		教員室にて

授業名： 保育実習 I (保育所)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	こども未来学科	【学年】	1
		細川	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	80時間
			【曜日・コマ】		【授業形態・単位】	実習 4
【授業の概要】 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解し、観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。また、保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学びながら、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 ①保育所の役割や機能を具体的に理解する。 ②観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 ③既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。 ④保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。 ⑤保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。					前に踏み出す力 考え抜く力 チームで働く力 発達援助技術 生活援助技術 環境構成技術 遊びの展開技術 コミュニケーション技術	
【履修上の注意】		保育実習では、社会人としてのマナーが身につけていること、最低限の知識や技能を習得していることが前提となるため、これらを満たしていない場合には、実習制限処置が取られることもあるので十分注意すること。				
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1		1. 保育所の役割と機能 (1) 保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わり (2) 保育所保育指針に基づく保育の展開 2. 子どもの理解 (1) 子どもの観察その記録による理解 (2) 子どもの発達過程の理解 (3) 子どもへの援助や関わり 3. 保育内容・保育環境 (1) 保育の計画に基づく保育内容 (2) 子どもの発達過程に応じた保育内容 (3) 子どもの生活や遊びと保育環境 (4) 子どもの健康と安全 4. 保育の計画・観察・記録 (1) 全体的な計画と指導計画及び評価の理解 (2) 記録に基づく省察・自己評価 5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理 (1) 保育士の業務内容 (2) 職員間の役割分担や連携・協働 (3) 保育士の役割と職業倫理				
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
期末試験		評価方法	施設の評価	70%	学校の評価	30%
【教科書】		実習の手引き・福島県保育実習施設 (福島県保育者養成校連絡会) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針(チャイルド本社)				
【参考書】		学びつづける保育者をめざす実習の本(萌文書林) 保育で役立つ! 0~5歳児の手あそび・うたあそび(ナツメ社)				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】			
			教員室にて			

授業名: 保育実習指導 I (1/3)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	こども未来学科	【学年】	1	
こども未来学科教員	一般	細川	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)	
			【曜日・コマ】	水 3	【授業形態・単位】	演習 2	
【授業の概要】 保育実習の意義や目的を理解し、事前指導、事後指導を通して、保育士としての自らの課題を明確にしていく。また、実習をする際に必要である、マナーやプライバシーの保護、守秘義務等について理解する。					【受講して得られる力】 前に踏み出す力 考え抜く力 チームで働く力 発達援助技術 生活援助技術 コミュニケーション技術		
【学習目標(到達目標)】 ①保育実習の意義・目的・内容を理解し、それを踏まえた実習目標を設定する。 ②実習における留意点を理解する。 ③実習の計画・実践・観察・記録の方法について具体的に理解する。 ④実習事後指導を通して、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。							
【履修上の注意】		補足的授業を別に設けるため、実施日に注意すること。この科目が不合格の場合は、保育実習に参加することができなくなるため十分注意すること。					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	実習の目的と概要 細川		実習の目的を知り、授業の流れを理解する。 実習の段階と、各段階の実習内容を理解する。				
2	保育教材調べ① 勝見		教材がもつ意味や教材の特徴などを調べる。				
3	保育教材調べ② 勝見		実際に教材を作り、発表の準備をする。				
4	保育教材調べ③ 勝見		調べたことや作成した教材を使って、説明・発表を行う。				
5	実習の留意事項 田母神		映像を通して、実習全体の様子を把握し、実習生として注意しなければならないことを学ぶ。				
6	実習時のマナー 田母神		実習生及び社会人としての身だしなみや言葉遣いなどについて学ぶ。				
7	実習の留意事項(プライバシー・観察の視点) 細川		子どもの人権とプライバシー保護、守秘義務について学ぶ。				
8	附属保育所観察実習 渡邊		附属保育所で子どもと関わり、それを通して、子どもと関わること、触れることに慣れる。				
9	教材研究①(パネルシアター) 渡邊		パネルシアター作成				
10	教材研究②(パネルシアター) 渡邊		パネルシアター作成				
11	教材研究③(パネルシアター) 渡邊		パネルシアター作成				
12	教材研究④(パネルシアター) 渡邊		パネルシアター作成				
13	実習事前学習ボランティア準備(電話のかけ方、持ち物) 田母神		電話の掛け方を学び、実際に、実習予定保育所へ電話してボランティア活動日時や持ち物等の確認をする。				
14	環境美化活動 田母神		環境整備、美化活動の留意点を理解しながら、掃除を行う。				
15	日誌の書き方 細川		記録の目的を把握し、実習記録の書き方を理解する。				
期末試験			評価方法	受講態度	40%	課題の達成度	40%
				発表会の結果	20%		
【教科書】		実習の手引き・福島県保育実習施設(福島県保育者養成校連絡会) 学びつづける保育者をめざす実習の本(萌文書林) 保育で役立つ! 0~5歳児の手あそび・うたあそび(ナツメ社) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針(チャイルド本社)					
【参考書】							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		授業で学習した手遊びの復習、保育教材の作成をしておきましょう。					
【本講義に関する質問先】		担当教員		【質問方法】			教員室にて

授業名: 保育実習指導 I (2/3)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	こども未来学科	【学年】	1	
こども未来学科教員	一般	細川	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)	
			【曜日・コマ】	金 4	【授業形態・単位】	演習 2	
【授業の概要】 保育実習の意義や目的を理解し、事前指導、事後指導を通して、保育士としての自らの課題を明確にしていく。また、実習をする際に必要である、マナーやプライバシーの保護、守秘義務等について理解する。					【受講して得られる力】 前に踏み出す力 考え抜く力 チームで働く力 発達援助技術 生活援助技術 コミュニケーション技術		
【学習目標(到達目標)】 ①保育実習の意義・目的・内容を理解し、それを踏まえた実習目標を設定する。 ②実習における留意点を理解する。 ③実習の計画・実践・観察・記録の方法について具体的に理解する。 ④実習事後指導を通して、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。							
【履修上の注意】		補足的授業を別に設けるため、実施日に注意すること。この科目が不合格の場合は、保育実習に参加することができなくなるため十分注意すること。					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	実習施設におけるボランティア①		実習予定保育所にてボランティアを行い、活動内容を実習日誌の書き方に則して記録作成を行う。				
2	実習施設におけるボランティア②		実習予定保育所にてボランティアを行い、活動内容を実習日誌の書き方に則して記録作成を行う。				
3	実習施設におけるボランティア③		実習予定保育所にてボランティアを行い、活動内容を実習日誌の書き方に則して記録作成を行う。				
4	実習施設におけるボランティア④		実習予定保育所にてボランティアを行い、活動内容を実習日誌の書き方に則して記録作成を行う。				
5	ボランティア事後指導		活動内容と取り組み姿勢を振り返り、本実習までの改善点を理解する。				
6	指導計画立案 田母神		指導計画を立案することの意味を理解し、実際に部分実習を意識した指導計画を立案する。				
7	保育実践 鈴木		実習で実際に使用することを意識して、伝承遊びを習得する。				
8	模擬保育 勝見		導入、展開、まとめを意識した、短時間の保育実践を行う。				
9	模擬保育 渡邊		乳児の保育実践を行う。				
10	模擬保育 大坂		音楽表現活動の保育実践を行う。				
11	実習記録の書き方 細川		子どもと保育士の理解を深めるための記録の書き方を習得する。				
12	実習の意義・目標 細川		保育士の職務と役割を把握し、実習で学ぶ視点について理解する。 実習の目的と学習目標を確認し、実習生が学ぶべき内容を踏まえた実習目標を立てる。				
13	附属保育所参加実習 鈴木・渡邊・大坂		附属保育所で子どもと関わりながら、子どもや保育士の動きを記録して理解を深める。				
14	実習直前学習		実習に向けての最終確認を行う。				
15	実習事後学習		自己評価と実習先評価、疑問点について個別的に助言を受ける。 今後に向けた課題を明確化する。				
期末試験			評価方法	受講態度	40%	課題の達成度	40%
				発表会の結果	20%		
【教科書】 実習の手引き・福島県保育実習施設(福島県保育者養成校連絡会) 学びつづける保育者をめざす実習の本(萌文書林) 保育で役立つ! 0~5歳児の手あそび・うたあそび(ナツメ社) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針(チャイルド本社)							
【参考書】							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 授業で学習した手遊びの復習、保育教材の作成をしておきましょう。							
【本講義に関する質問先】			担当教員		【質問方法】		教員室にて

授業名: 保育実習指導 I (3/3) ※2年生前期

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	こども未来学科	【学年】	2	
こども未来学科教員		一般	細川	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	
				【曜日・コマ】		【授業形態・単位】	
【授業の概要】 保育実習の意義や目的を理解し、事前指導、事後指導を通して、保育士としての自らの課題を明確にしていく。また、実習をする際に必要である、マナーやプライバシーの保護、守秘義務等について理解する。					【受講して得られる力】 前に踏み出す力 考え抜く力 チームで働く力 発達援助技術 生活援助技術 コミュニケーション技術		
【学習目標(到達目標)】 ①保育実習の意義・目的・内容を理解し、それを踏まえた実習目標を設定する。 ②実習における留意点を理解する。 ③実習の計画・実践・観察・記録の方法について具体的に理解する。 ④実習事後指導を通して、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。							
【履修上の注意】		補足的授業であるため、実施日に注意すること。保育所実習が不合格の場合は、施設実習に参加することができなくなるため十分注意すること。					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	施設実習の意義と方法 細川		実習の目的を知り、実習の段階と、その具体的内容を理解する。				
2	施設実習準備 細川		必要書類の記入と確認、提出をする。				
3	施設実習直前学習 細川		実習に向けての最終確認を行う。				
4	実習の記録 細川		記録の目的の理解を深め、実習記録の書き方を再確認する。				
5	実習の留意事項(プライバシー) 細川		子どもの最善の利益と守秘義務について理解する。				
6	実習の留意事項(マナー) 田母神		身だしなみや言葉遣いの重要性を再確認し、実習生としての心構えを作る。				
7	施設実習事後指導		実習の自己評価と振り返りから、自己の課題を明確化し、次の実習の目標と方法を考える。				
8	施設実習報告会 細川		実習内容をまとめ、実習報告会にて、1年生へ今後の実習に対するアドバイスを行う。				
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
期末試験			評価方法				
【教科書】 実習の手引き・福島県保育実習施設(福島県保育者養成校連絡会) 学びにつける保育者をめざす実習の本(萌文書林) 保育で役立つ! 0~5歳児の手あそび・うたあそび(ナツメ社) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針(チャイルド本社)							
【参考書】 現代の保育と社会的養護(勁草書房)							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 社会的養護 I・II の学習内容と、自らが実習する施設種別に関する再学習をしておきましょう。							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて